

夏休み経済教室(大坂高校対象) 記録

- 1 日時：2025 年 8 月 12 日（火） 9 時 30 分～16 時 00 分
- 2 場所：大阪取引所 OSE ホール（大阪証券取引所ビル）
- 3 参加人数：92 名（関係者含む）
- 4 主な内容：進行役 大塚雅之（大阪府立三国丘高等学校首席）

主催者挨拶

経済教育ネットワーク杉田孝之（千葉県立津田沼高等学校教諭）より挨拶と本日の趣旨説明。
東京証券取引所金融リテラシーサポート部部長斎藤史貴氏より挨拶。

■ 1 コマ目 実践報告：「公共」の実践（政治・経済）ーゲームで体験した「雰囲気」を、国際政治の学習に生かすディブリーフィング」

大山正博（武庫川女子大学）、新友一郎（兵庫県立神戸高等学校）

1 実践の背景

「国際政治」における行動等を理解できる「貿易ゲーム」では、対立のない「理想的平和」をめざす授業になりがちだが、対立がある状況下での「現実的平和」を考えていく必要がある。そのためには、自分の利益を求めつつ、他者も納得できる世界はないのか考えなければならない。

そこで、貿易ゲームの問題点と利点を整理し、改善した「貿易ゲーム」を授業で実践した。

2 ゲームの学習効果とディブリーフィングの重要性

ゲームには学習意欲の向上や、社会システムを当事者の立場から理解できるようになる、など多くの効果があるとして、これまで社会科教育においても数々の実践がおこなわれてきた。

しかし、ただゲームをするのみでは、学習効果は期待できず、効果を高めるためには、ゲーム後におこなう「ゲームの体験を学びに変えるプロセス」であるディブリーフィング（振り返り）が重要になってくる。

ところが、ディブリーフィングでは、盛り上がったゲームとは異なり、「お勉強」モードになり、熱は冷めてしまう。そこで、ゲーム時の盛り上がり（雰囲気）を分析し、それをディブリーフィングに取り入れる授業実践を試みた。それが本日の報告の授業である。

3 ゲームの「雰囲気」とは何か

雰囲気には、①「演じること」と「非日常性」②「競合性」③教師の「正しさ」からの解放とする「盛り上がりの要素」の三つの要素が考えられる。この要素をディブリーフィングで消さないための授業設計が求められる。

4 実際の授業の紹介と新しい授業設計

授業の実際の映像を紹介する。

「盛り上がり要素」に関連づけたディブリーフィングを設計するさいに、ゲームでの立場を保持させる場面を設け、教師は教える者ではなく、話し合いを整理する司会者、情報提供者を演じた。ただ理解するだけでなく、どのように理解しているのか質的なものを見ることにした。

結果、誰もが主張できる雰囲気から「多様な意見」が出た。また議論が活発化することで、考える事柄に対する枠組みが広がり、自分なりの答えを出してよいと生徒たちは認識した。

会場より質問・感想は以下の通り。

Q1：ゲームの学習効果の最後をどのように持っていくか、教員としてどのように示しているか？

A：学習者の対象によって異なるが、どの生徒でもディブリーフィングで教え込むと逆効果になるので、たとえば勉強が苦手な生徒が多い授業だとグループワークのところで教員が提示する機会を増やすなどを行うとよい。

Q2：貿易ゲームとディブリーフィングがつながっていないように思えるのだが？

A：貿易ゲームがメインではなく、メインテーマは国際理解。国際社会のなかでの葛藤を体験して欲しい、なまなましい現実を知って欲しいという意味で位置づけている。

Q3：見方・考え方を身につけるための位置づけや単元の時間配分をどのようにおこなっているか？限られた授業のなかで4コマを支払うコストはあるか。

A：実践校がSSHの指定校で学校設定科目もあり、理数科の授業でもあったので、様々な工夫をすることができ全部を網羅する必要がないため、重点的に学ぶところに時間をかけることができた。

■第2コマ目 講演「教育に活かす「マッチング理論」

安田洋祐（大阪大学大学院経済学研究科）

講演内容は別添、当日の配付資料を参照していただきたい。

会場より質問は以下の通り。

Q1：府立高校入試で検討されている生徒が高校の優先順位を決め、テストの点数順で決めていく方法はあるのか？

A：内申点とテストの点数で可否を決めるが、各学校によって配分が異なるので難しいがマッチングは可能ではないか

Q2：EBPM（エビデンス・ベースド・ポリシー・メイキング）を導入する際のハードルを解消するにはどうすればいいか

A：政策担当者が伝える対象者に仕組みをきちんと説明できるかが大事。導入することによって、全員がハッピーになれるかが難しく、一部が損をすると反発が生まれる。

Q3：社会の授業では今日の話をつどのような場面で活かすか？

A：パレート的な効率性を扱う箇所で生かせるのではないかと。金銭の売買が使えない場面（例、ワクチンの接種枠を決める仕組みなど）でも使える。

■3コマ目 講演：「国際政治の現状をどう見るか」

京都大学公共政策大学院 教授 中西寛

以下の5つの観点からのご講演があった。

- 1 学校での国際政治教育の3つのハードル
- 2 国際政治と国内政治の違い
- 3 2020年以降加速する国際政治の変化
- 4 具体的な分析
- 5 文明的な転機と今後の展望

会場からの質問は以下の通り。

Q：トランプ関税はなぜできるのか？ どう評価するか？

A：トランプ関税はマナー違反ととらえることができる。従来の考えでは、そのようなことはおこなわれなかったが、トランプ大統領はアメリカ全体の利益よりも支持者に向けて考えているので実施する。これまで世界経済がいかに中心となっていたアメリカに頼っているか再確認する。他国は妥協点を探ることになる。

■ 4 コマ目 講演：「経済教育の見直し：授業デザインを一新する」

経済教育ネットワーク代表 篠原総一

時代は変わっているが、「経済教育」の構成、単元構成の内容は 40 年くらい変化がない。「経済学」をもとにして「経済教育」をおこなうとおかしな部分が生じる。

経済学者は、現行の「経済教育」の枠組みに欠陥がたくさんあることに気付く。大学の経済学部のカリキュラムのつまみ食いになっているため、現行の単元構成で高等学校の生徒に教えにいくと不都合な部分がでてくる。

家計、企業、金融、財政、労働、社会保障、貿易、環境問題・・・とぶつ切りで散発的になっているのでつながりが見えてこない。経済の本質は「つながり」である。

教科書執筆者は必ずしも全体のことを考えてカリキュラムを考えているとは限らない。

授業をおこなう際、可能であるなら実名（企業名など）を使うと良い。例えば、衣類ではなく、ユニクロ（生産、ファストファッション、販売方法が具体的にイメージできる）。また、動画の活用（YouTube など）、なども積極的に試みたい。

経済学は理屈で説明するが、理屈だけだと生徒にとってわかりにくい。

経済学を専門としていない高校教員が普通の生徒（経済学を専門的に学ぶとは限らない）に教えることができる目次立ての提案をしてみた。

公民・公共の授業では「①誰に②何を③どのように教えるか」と 3 つの条件が整っていないといけない

教える場面を考えたらうでなるほどそうかと腑に落ちて納得する授業の組み立て方を考える必要がある。そのための、出発点は、経済とは「私たちの暮らしをみんなで支え合う社会の仕組み」であるという認識である。信頼に基づく分業と交換のつながりが経済の本質であり、学ぶべき基本概念もここから登場する。一方で米トランプ大統領のような「奪い合いの経済」を掲げる考え方もある。

教員からかけられる言葉は子どもたちの価値判断に大きく影響している。高等学校の生徒に向けて、先生方は、何を教え、どのようなメッセージを伝えているのだろうか。何のために教えるのか。知識、考え方が将来どのように役立つのか教える必要がある。

例えば、貿易論ではリカード（比較優位）やリスト（保護貿易）など用語や人物名がポツと出てくるのでわからない。脈絡がなく、何が教えたいのかわからない。理解させるには前提条件（外国から品物を買うと買える世界）をふまえる必要がある。ただし現実の国際経済は買おうと思っても買えない世界である。抽象理論を教えるのではなく現実を教えるべきなのだ。

これなら分かるという独自の構成を提言する。（詳細は資料参照）

この表の特質は、縦に読むことで、衣食住からはじまり、だんだん世界が広がり、経済のつながり仕組みがわかるように構成されているところである。内容の並びを変えるだけで社会の仕組みがわかりや

すくなる。

また、横に読むことで、その財やサービスがどのように作られ、私たちの手元に届いているのかの流れが分かるようになっている。ここで、企業の役割や本質が理解できるようになる。また、市場での取引以外の供給やそれを支えるインフラ、社会的共通資本に相当する仕組みにも目がゆくようになっている。

このマトリックスを活用して、あとは、具体的な授業プランを先生方が作り上げてゆくことを期待したい。

質疑なし。

以上 記録 米田正樹（大阪府立松原高等学校）